

JAPIC NEWS

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)

2006年2月号 (No.262)

目 次

《巻頭言》

次世代医薬情報資源と高度利用機能について…………… 2

藤原 譲 (基礎情報学研究所・JAPIC 理事)

《お知らせ》

「臨床試験情報」説明会開催 / JAPIC「医療用医薬品集」更新情報1月版・JAPIC「医療用
医薬品集」2006 追補発行 / JAPIC 医療用医薬品集インストール版 2006 年1月版発行 /
平成18年度「JAPIC-Q サービス」「JAPIC-Q Plus サービス」更新手続きについて /

「第124回薬事研究会」開催 / 第34回 JAPIC 医薬情報講座開催…………… 4

《トピックス》

新薬承認審査報告書データベース「日本の新薬」テストリリース /
JAPIC 医療機関・大学等会員の会費値下げについて /

平成17年第2回 JASDI フォーラム参加記…………… 13

《図書館だより No.188》…………… 20

《1月の情報提供一覧》…………… 22

《巻頭言》

「次世代医薬情報資源と高度利用機能について」

- 医薬品の研究開発と適切な利用を支援する医薬情報・知識システム -

基礎情報学研究所

藤原 譲 (*Fujiwara Yuzuru*)

(JAPIC 理事)

科学技術の急速な発展の象徴である情報の通信・蓄積・利用はインターネットとパーソナルコンピュータの普及で、いわゆる地球規模の情報化が急速に進行していることはよく認識されているし、実際に装置の機能、特に情報の処理、記憶、通信などの容量、速度は毎年「倍倍」ゲームといわれるほどに大きくなり、しかも価格は逆に急速に低減している状態が長期間にわたっていることは驚くべきことである。したがって研究開発の面でも情報や知識の活用が便利になり、大幅に進んできたことは、大方の人が便利な時代になったと感じておられる通りであり、改めて述べるまでもない。

ところで大量の情報の提供や利用の技術が大幅に改善されていることに比較して、情報や知識の活用が進んでいるかといえば、残念ながら情報へのアクセスは基本的にはキーワードと書誌事項または所在情報を手掛かりとする単純なものに留まっている。以下の記述でデータ、情報、知識のそれぞれの定義が必要となるのでここでそれを記しておく。

「情報」とは「認知や思考の対象についての認識内容」

「データ」とは「情報を記述、表現するときの最小単位」

「知識」とは「意味関係に対応して体系的に構造化された情報」

いうまでも無く情報や知識の利用において最も重要なことは情報や知識の内容であって、指定したキーワードのセットが対応することだけではない。しかしながら現在使用されている計算機はいわゆるチューリングマシンと呼ばれるアーキテクチャーで作られており、処理対象となる符号列をあらかじめ決められている符号の照合だけで処理することになっている。これは極めて簡単かつ強力な方式であり、数値計算や符号照合などには便利、高速かつ正確である。

そもそも Alan Mathison Turing(1912-1954) が現在最もよく使われている計算機の基礎的アーキテクチャーの論文を発表したのは 1936 年であり、文字通り計算で決定できる問題への応用を対象として考えたものである。もちろん現在でも記号処理だけでは十分でない自然言語処理にもある範囲で適用されていることはよく知られたことで、改めて述べるまでもないことでしょう。

しかし残念ながら現在の自然言語処理も Turing Machine では十分な意味理解に基づく処理ではなく符号の形式処理の範囲内であるため、現在よく使われている各種のデータベースや先端的研究開発や高度な評価や判断を支援する特定分野に関する知識基盤の構築も多くの機関で試みられているが、実用に耐えられる段階には達していない。

つまり知識に基づく意味理解の機能がなければ解決できないことは人間が行っている情報や知識の意味理解とその限界を考えてみると容易に納得できる。我々が新しい知識を与

えられたときその全てを理解できるのは自分の持っている知識の範囲内でその新しい知識を既存の知識と矛盾なく解釈し、受け入れることができるときに限られる。

現在日本医薬情報センター（JAPIC）には医薬に関する内外の専門書を所蔵し、また独自に編集・刊行しているベストセラーの医療用医薬品集はじめ各種の資料を整備したり、情報の電子化にも早くから取り組んできている。主要な情報は一昨年公開された医薬品情報データベース「iyakuSearch」やJIPのe-InfoStreamなど、インターネットやMailの形で毎日提供されている。医薬品集のCD-ROMは年4回発行されている。

医学、薬学の進歩は、遺伝子、蛋白などの悉皆的解析の国際的競争激化もあり急速に展開しているため、医薬品の開発速度も急速に高まりつつある。このことの必要性はいうまでもないが、副作用や処方より適切な対応の支援要求も加速的に増加することにつながるため、医薬品に関する情報サービスもこれまで以上に重要な役割を担うことになってきている。

一般的にこれまでの情報システムはキーワード検索によるのが通常の使い方である。アクセスできる情報が多くなればなるほどこれは厄介な問題となる。この問題は情報処理の基本課題である意味処理に直結することで、現時点でも未解決である。しかしながら多量多量の情報を種々の目的で利用するときには是非とも解決しなければならないことである。

また過ちを避けるだけでなく、症状に最適な処方を支援するシステムの開発は折角収集されている貴重な情報の有効利用のために必然の方向であり、さらに進めれば他の関連情報と併せて医薬の開発にも役立つものとなる。そのためにはこれまで以上に必要な情報の網羅的収集および誤りの無い内容の検証・維持が要求されることになる。

情報化の進歩が急速であることで利用できる情報量も大幅に増大しているためであるから、これまでのようにコアとなる情報の収集・整備・提供に加え、関連する情報の収集も検討し直す時である。必ずしも直接収集するのみでなく必要に応じ利用できる体制も関係情報機関との連携で可能性が有ると思われます。数年前に開発された「医薬品適正使用支援システム」（ファルマアシスト）から派生し、ごく最近開発された「添付文書記載病名集」及びそのデータベースのような提供はセンターの本来の趣旨から望ましい展開である。

また、医薬品の適切な処方・使用はもとより、より良い医薬品の迅速な開発に役立つ医薬情報の整備と利用システムの展開に向けてJAPICの活動がこれまで以上に期待されていることへの最初の回答となっています。

質の高い情報を漏れなく迅速に集め、適切に管理し、高度利用のために誤りのない情報を必要な所へ提供することは、現在の技術ではすぐには解決できない問題も残っていますが、情報技術の急速かつ抜本的な進歩により、容易とはいえないでしょうが実現可能な作業であることは十分予測されていることです。それは科学技術情報のなかで医薬情報は学問の領域が専門知識の構造化がし易く、したがって得られる貴重な知識の有効かつ高度な利用システムの開発のためにも「必要な情報」を「できるだけ多く」収集して、専門家の持つ知識と判断力と併せることで、これまでに培われた優れた医薬情報の提供と高度な利用がさらに進むことを期待する次第です。

お知らせ

「臨床試験情報」説明会 開催のご案内 試験結果の登録と公開を中心に -

主催 (財)日本医薬情報センター
共催 日本製薬工業協会

臨床試験の登録および公開については、試験結果の公開のバイアス(出版バイアス等)の低減、倫理面の配慮の観点からその必要性が以前から指摘され、昨年来、公開の場を提供する動きが出てまいりました。

(財)日本医薬情報センター(JAPIC)も昨年7月1日に「臨床試験情報 JapicCTI」を公開し、運用してまいりました。また、試験結果の登録・公開につきましても検討を行い、この度公開することといたしました。

つきましては、現在運用中の本システムのご利用方法について以下の通り説明会を開催したいと存じますので、ご参加いただきたくご案内申し上げます。

記

場所：大阪商工会議所 地下1階1号会議室
〒540-0029 大阪府中央区本町橋2-8 Tel. 06-6944-6268
日時：平成18年2月23日(木)14:00~17:00

説明会プログラム

- 14:00~14:10 挨拶
(財)日本医薬情報センター 首藤紘一 理事長
- 14:10~15:10 治験をめぐる最近の話題
国立がんセンター中央病院 通院治療センター医長 治験管理室
長/臨床試験管理推進グループ長 藤原康弘 先生
- 15:10~15:50 治験依頼者から見た治験の現状と製薬協の取り組み
日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 臨床評価部会 長田徹人 部会長
- 15:50-16:00 休憩
- 16:00~16:40 臨床試験情報・試験結果の登録と公開 (JAPIC)
- 16:40~17:00 Q&A

- 参加費 : 無料
- 参加申込み方法 : 所定の申込書に必要事項をご記入の上2月20日までにFAX
(03-5466-1814)でお申し込みください。申込用紙はJAPIC
ホームページからダウンロードできます。
- 申し込み・問合せ先 : 〒150-0002 渋谷区渋谷2-12-15 長井記念館3階
(財)日本医薬情報センター(JAPIC)事務局業務・渉外担当
TEL 03-5466-1812 FAX 03-5466-1814
Mail gyoumu@qb3.so-net.ne.jp

FAX 03 - 5466 - 1814

「臨床試験情報」説明会
試験結果の登録と公開を中心に

開催日時：平成 18 年 2 月 23 日（木）14:00～17:00

場 所：大阪商工会議所地下 1 階 1 号会議室

（〒540-0029 大阪市中央区本町橋 2-8 Tel.06-6944-6268）

会社名 住所・Tel・Fax	会社名		
	住所		
	Tel		
参加者 何名でも一緒に記入申込できます。	氏名	所属	メールアドレス
ご質問等			

平成 18 年 2 月 20 日締切

（財）日本医薬情報センター（JAPIC）
〒150-0002 渋谷区渋谷 2-12-15 長井記念館 3F
TEL: 03-5466-1812

『JAPIC「医療用医薬品集」更新情報』2006年1月版

及び『JAPIC「医療用医薬品集」2006追補』の発行のお知らせ

JAPICでは常に最新の情報を皆様にお届けするため『JAPIC「医療用医薬品集」2006』の更新情報として、添付文書における新薬・重要な改訂情報の提供を行っております。

『JAPIC「医療用医薬品集」更新情報』の12月版（シール形式）を1月末に発行いたします。昨今の医薬品情報の改訂量を反映して、前版につづき70枚以上での構成となっております。用途に合わせて取捨選択してご利用いただくことをおすすめいたします。

また、2006年1月末にはこれら更新情報をまとめた冊子：『JAPIC「医療用医薬品集」2006追補』を発行いたします。こちらは無償で提供いたしますので、書籍綴込みハガキでは是非お申し込み下さい。

常に最新の添付文書情報を机上に置くためにも、これらの製品をぜひご利用下さい。

〈『JAPIC「医療用医薬品集」更新情報』2006年1月版〉

〔提供対象医薬品〕

- ・2005年12月までの国内の新成分医薬品および更新された製品で【効能効果】、【用法用量】、【警告】、【禁忌】、【原則禁忌】、【併用禁忌】、【原則併用禁忌】、【重大な副作用】の変更があったもの。
- ・該当個所の改訂部分をシール形式で提供いたします。

〔価格〕

- ・2006年6月版までの毎月分を1セットとして3,000円(税・送料込)〔綴じ込みハガキには、“3,600円”とありますが、本年度は2005年9・10月版を無料としたため値下げさせていただきます〕

〈『JAPIC「医療用医薬品集」2006追補』〉

〔内容〕

- ・2005年9月～2006年1月版までの更新情報をまとめたものに検索しやすい索引を付けました。
- ・追補は無償で提供いたします。

記載例（更新情報及び追補は同じ体裁・内容です）

更新情報発行年月、新設・削除部分、「使用上の注意改訂指示」年月を記載

該当項目表題・基本添付文書改訂年月・貼付位置

該当項目表題

連番

基本添付文書における改訂箇所には下線を入れてあります。
《改訂の下線について》厚生労働省改訂指示のものは実線(____)、それ以外(自主改訂など)は点線(____)で示してあります。

JAPIC「医薬品集」2006 更新情報2005年9月
厚生労働省「使用上の注意の改訂指示」
(平成17年7月30日告示) 実施

alipiriloxacin (JAN)
シブプロロキサシン 404,739
ニューキノン製薬有限

シブプロロキサシン 2006年7月改訂 (1081頁右) 003

【新設】 添付文書の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、シブプロロキサシンを投与中の患者(添付文書の項参照)、シブプロロキサシンを投与中の患者(添付文書の項参照)、重症感染症に罹患している可能性のある患者(経腸・経膈・髄液腔等への投与の項参照)、幼小児等(小児等への投与の項参照)、ただし、経腸又は経膈している可能性のある患者及び幼小児に対しては、添付文書、治療上の留意性を考慮して使用する

©日本製薬協会の登録商標

尚、JAPIC 医薬品集関連製品に関しては JAPIC ホームページ (<http://www.japic.or.jp>) でも随時公開していきますので、最新情報についてはそちらもご参照下さい。

《JAPIC 医薬品集関連製品のご購入・お問い合わせは》

事務局業務渉外担当 TEL.03-5466-1812、FAX.03-5466-1814

(添付文書情報担当 TEL.03-5466-1825)



「JAPIC 医療用医薬品集インストール版

2006年1月」の発行のお知らせ

2005年10月に発行いたしました「JAPIC 医療用医薬品集インストール版 2005年10月」のデータ更新・機能強化版として「**JAPIC 医療用医薬品集インストール版 2006年1月**」を2006年1月末に発売いたします。

今版につきましても書籍では不可能な 文中語検索、 規制や剤形等からの検索（例：処方箋医薬品に該当する医薬品）、 識別コードからの検索といった基本検索機能に加え、 大小さまざまな機能追加・改良を加えております。



今版での大きな機能追加は次の2つです。

院内採用医薬品集編集機能を追加

2005年10月版では採用品の登録・未編集のデータ書き出し機能を搭載していましたが、2006年1月版からは更に医療用医薬品集本文データを読み込み、自由な編集が可能となりました。また、2005年10月版における採用品情報を引き継ぐことが可能で、以降採用品情報・編集データはエクスポートデータとして書き出す事ができますので、2006年1月版以降のインポート機能を使用いただくと採用品情報・編集データを引き継げます。この機能によりデータの共有化・引継が可能になり、継続してご利用いただければ作業が省力化できます。まだ不十分な部分もありますが、次版以降更なる機能強化を行ってまいります。

一般用医薬品データを追加

JAPIC 独自調査(2005年3月実施)に基づく一般用医薬品データ情報を収載しました。全製品の添付文書記載情報(「組成」・「効能」・「用法」等)及び一部製品では使用上の注意データを収載しており、医療用薬の「重要な基本的注意」に該当する「相談すること」等の記載も収載しております。一般用薬も医療用薬とほぼ同様の検索機能を備えており、文中語検索はもとより、規制等の情報からの検索、また、製品名(成分名)・会社名では医療用・一般用相互検索も可能としております。

より使いやすいCD-ROMを目指し、更に発展し続ける“JAPIC 医療用医薬品集インストール版 2006年1月”をよろしく願いたします。

本 CD-ROM の収載内容は以下の通りです。

医療用医薬品情報 (2,009 成分):

JAPIC「医療用医薬品集」2006 年版収載 医療用薬添付文書情報
+ 2005 年 12 月 21 日までの改訂情報および 2005 年 12 月 16 日承認分までの新規成分・報告品 (一部) の添付文書情報
〔薬価情報については医療用医薬品集非収載成分についても収載〕

2006 年 1 月版における新規項目

医療用医薬品集項目名	製品名
ミグリトール	セイブル錠 25・50・75mg (三和化学)
塩酸モキシフロキサシン	アベロックス錠 400mg (パイエル薬品)

医療用医薬品識別コード情報 (約 7,000 件):

薬剤識別コード一覧 2006 年版収載 識別コード情報
+ 2005 年 12 月 21 日までの改訂情報および 2005 年 12 月 16 日承認分までの新規成分医薬品・報告品

一般用医薬品情報 (約 12,400 件): 2005 年 3 月調査に基づくデータを収載

インストール版では常に最新のデータをお届けするため、単品 15,000 円 (税込) で年 4 回 (1 月・4 月・7 月・10 月) 発売しております。お得な年間 4 回セット [25,000 円 (税込)] もありますので是非この機会にご購入下さい。(綴じ込みハガキまたは直接 JAPIC までご連絡下さい)

	Windows	Macintosh
OS	Windows 98SE, Me, 2000 Professional, XP Professional, XP Home Edition	Mac OS 9.2(Carbon Lib 1.6 以上), Mac OS X(10.1 ~ 10.3) [MacOS X(10.1)以上]
CPU	Pentium または互換プロセッサ 1.0GHz 以上のプロセッサ	PowerPC G4 以上 (Intel 製 CPU を除く)
HDD 空き領域	500MB 以上 (院内採用医薬品集編集データ分を除く)	500MB 以上 (院内採用医薬品集編集データ分を除く)
メモリ	512MB 以上	512MB 以上
画面解像度・ 表示色数	1,024×768pixel 以上、 約 65,000 色以上	1,024×768pixel 以上、 約 65,000 色以上

Win-Mac 両対応のパソコンフルインストールタイプですので、使用する際に CD-ROM は不要です。

尚、JAPIC 医薬品集関連製品に関しては JAPIC ホームページ (<http://www.japic.or.jp>) でも随時公開していきますので、最新情報についてはそちらもご参照下さい。

《JAPIC 医薬品集関連製品のご購入・お問い合わせはこちらまで》

事務局業務渉外担当 TEL.03-5466-1812、FAX.03-5466-1814
(添付文書情報担当 TEL.03-5466-1825)

平成 18 年度「JAPIC-Q サービス」および「JAPIC-Q Plus サービス」の 更新手続きについて

平成 18 年度の JAPIC-Q サービスの更新につきましては、1 月下旬にユーザの皆様へ手続きの資料をお送りいたしました。なお締め切りは 2 月 17 日（金）ですが、まだ更新手続きをされていないユーザの方は、早めをお願いいたします。

（事務局業務担当 TEL.03-5466-1811）

（医薬文献情報担当 TEL.03-5466-1821）

「第 124 回薬事研究会」開催のお知らせ（第二報）

薬事研究会を下記により開催いたします。多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

日時：平成 18 年 2 月 8 日（水） 13：30～16：15
場所：日本消防会館 ニッショーホール 東京都港区虎ノ門 2-9-16
講演：(1) 「東南アジアにおける国際治験の環境と現況」13：15～14：45
クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社
グローバル・エクスポート・ジャパンシニアディレクター
武藤 博 氏

(2) 「アジア地域を含めた国債共同治験について」14：55～16：05
医薬品医療機器総合機構新薬審査第一部長 森 和彦 氏

参加費：資料費及び会場費等として 1 名 3,000 円（当日会場でいただきます）

申込方法：申込書（PDF ファイル）に必要事項をご記入の上、メール

（gyoumu@qb3.so-net.ne.jp）または Fax（03-5466-1814）にてお申込みください。＜申込書は JAPIC ホームページからダウンロードできます。＞

問い合わせ先：事務局業務・渉外担当（03-5466-1812）

第 34 回 JAPIC 医薬情報講座 開催のご案内 (第二報)

日 時 : 2006 年 3 月 2 日 (木) ~ 3 日 (金) 2 日間
テ ー マ : 「医療安全に向けた医薬品情報提供」
場 所 : 日本薬学会長井記念ホール (東京都渋谷区渋谷 2-12-15)

1. 開催の趣旨

最近の医療界の大きな流れは患者に最適な医療を安全に提供することが強く求められており、医療全般の領域でシステムの改革が求められています。今回は「医療安全に向けた医薬品情報提供」をテーマに関連分野の先生方に現状の取組みと今後のありかたについてご講演いただくことにしました。

1 日目は行政、関連団体等の立場から新しい取組みの概要と関連基礎情報を、2 日目は、医療現場、薬学系大学、情報提供者の取組みなど医療の現場により接近した内容についてプログラムを組みました。

* 「JAPIC 医薬情報講座」の 2 日間の予定プログラムは次ページをご覧ください。

2. 定 員

毎日の定員は 150 名

3. お申込方法等

参加者 1 名毎に、参加申込書に必要事項をご記入の上、2 月 24 日 (金) までに Fax (03-5466-1814) でお申込み下さい。(JAPIC ホームページ <http://www.japic.or.jp> からダウンロードできます)

参加者には (財) 日本薬剤師研修センターの受講シールを発行する予定にしています。

お申込みは先着順です。お申込受付されますと聴講券、請求書等をお送りいたします。満席の場合はその旨ご連絡いたします。

参加者には、会場で当日のテキストをお渡しします。聴講券を提示して下さい。

4. 参 加 費

1 人 1 日ごとに、1 万円 (JAPIC 会員は 5,000 円)

参加費には資料代、消費税を含みます。なお、昼食はご用意いたしません。

5. お申込み・問合わせ先

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 長井記念館 3 階

(財) 日本医薬情報センター (JAPIC) 事務局業務・渉外担当

TEL.03-5466-1812 FAX.03-5466-1814

第 34 回 JAPIC 医薬情報講座プログラム

テーマ：「医療安全に向けた医薬品情報提供」

1 日目 3月2日(木)

- 10:00 ~ 10:10 理事長挨拶
- 10:10 ~ 11:00 医薬品安全対策における行政の最近の動き
厚生労働省医薬食品局安全対策課 中垣 俊郎 先生
- 11:00 ~ 12:00 患者向け医薬品ガイド
財団法人日本薬剤師研修センター 久保 鈴子 先生
- 12:00 ~ 13:30 (昼食)
- 13:30 ~ 14:30 医療安全のための医薬品コード 病院の立場から
東京医科歯科大学歯学部附属病院薬剤部 土屋 文人 先生
- 14:30 ~ 15:30 医薬品情報階層化への動き
慶応義塾大学医学部付属病院薬剤部 谷川原 祐介先生
- 15:30 ~ 15:50 (休憩)
- 15:50 ~ 16:50 Stevens-Johnson 症候群 / TEN の診断と治療
昭和大学医学部皮膚科学教室 飯島 正文 先生

2 日目 3月3日(金)

- 10:00 ~ 11:00 妊娠と薬情報センターの取組み
国立成育医療センター 薬剤部 中島 研 先生
- 11:00 ~ 12:00 医療機関における医薬品情報源の現状
千葉県薬剤師会薬事情報センター 飯嶋 久志 先生
- 12:00 ~ 13:00 (昼食)
- 13:00 ~ 14:00 医療薬学教育における医薬品情報
広島大学大学院医歯薬学総合研究科 猪川 和朗 先生
- 14:00 ~ 14:40 IT を活用した情報提供
(株) 保健同人社 大渡 肇 先生
高橋 敏子 先生
- 14:40 ~ 15:00 (休憩)
- 15:00 ~ 15:40 IT を活用した情報提供
ソネット・エムスリー(株) 佐竹 隆 先生
- 15:40 ~ 16:20 IT を活用した情報提供 : TOP/NET(東海4県情報システム)
静岡県薬剤師会医薬品情報管理センター 大石 順子 先生
- 16:20 ~ 16:30 閉会の挨拶
- 以上

トピックス

●新薬承認審査報告書データベース「日本の新薬」 テストリリースのご案内！！

新薬承認審査報告書の全文データベース「日本の新薬」(以下「日本の新薬」DB)を1月11日にテストリリースしました。

現在、新薬の承認に関する情報は薬剤師研修センターより冊子体「新薬承認情報集」が、また独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」からPDFの形で公開されております。この公開された情報のうち審査報告書部分をテキスト化し、検索ができるようにデータベース化したものが「日本の新薬」DBです。

テスト期間はどなたでも無料でご利用いただけます。この機会にぜひご利用いただき、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

●「日本の新薬」DB テスト版の収録範囲と検索項目・機能は以下のとおりです。

検索はどこから？

右のアドレスから検索できます。 <http://www.shinsahoukokusho.jp/>

JAPIC ホームページ(<http://www.japic.or.jp/>)の右下、臨床試験情報の上にある緑色の「日本の新薬」ボタンからもアクセスできます。

収録データおよび収録範囲

- ・新薬の承認に関する情報の中、「審査報告書」と「審査結果報告書」
- ・平成10年1月承認分～平成17年10月承認公表分

検索項目とそこに含まれる審査報告書の内容は次ページのとおりです。

医薬品名（販売名、一般名、有効成分名、化学名、本質）

申請・承認年月日（申請年月日、承認年月日）

申請区分

剤形

会社名（申請者名）

薬効分類名（薬効分類名、薬効分類番号）

効能・効果（効能・効果、申請時の効能・効果）

使用上の注意（効能・効果の使用上の注意、用法・用量の使用上の注意）

承認条件

特記事項

検索結果

一覧表示（CSV形式でダウンロード可能です。）

検索結果は承認年月の新しいものから表形式で一覧表示されます。

一覧表示は固定で表示される項目と選択できる項目があります。

固定表示項目

・承認番号 ・販売名 ・一般名 ・剤形 ・会社名 ・薬効分類名

・承認・申請年月日

選択表示項目（3個まで選択可能です）

・申請区分 ・効能効果 ・申請時の効能・効果 ・用法・用量

・申請時の用法・用量 ・承認条件 ・特記事項

全文詳細表示

・全文 HTML と PDF がご覧いただけます。

更新頻度

審査報告書、審査結果報告書が公表され次第、データ化を行い、漸次更新いたします。

●今後の予定

テスト版(Ver.0.5)でいただいたご意見を参考に本年4月以降に本リリースする予定です。

本リリース時の追加搭載機能

全文検索機能

項目別選択・表示機能（イ・・・ロ・・・などのご覧になりたい項目だけ表示できます）

全文または項目別ダウンロード機能

その他ご要望のあった機能

この機会にぜひご利用いただき、ご利用いただいてのご感想、ご意見を「日本の新薬」検索画面下に記載されておりますメールアドレス宛にお願い申し上げます。本リリースの参考にさせていただきます関係上、ご意見は2月末日までをお願いいたします。

なお、現在この審査報告書を薬効別に編集しました「日本の新薬」冊子体編を作成中です。併せてのご利用をお願い申し上げます。

（医薬文献情報担当 03-5466-1822）

JAPIC 医療機関・大学等会員の会費値下げについて

近年、JAPIC の企業会員数は微増となっていますが、医療機関会員数については減少傾向がみられます。医療機関・大学等の会費収入は約 3,300 万円であり、JAPIC の会費収入（年間約 4.8 億円）の約 7%を占めております。JAPIC の公益性を高めるためには、医療機関等の利用者数の拡がり重要です。

そのため、医療機関会員の減少傾向に歯止めをかけ、かつ新規会員の加入を促すに当たっては、会費・サービス価格体系と情報サービス提供内容の両面からの見直しが必要と考え、一昨年末から JAPIC 内に会員増強プロジェクトを作り、医療機関等会員を訪問しユーザニーズ等を踏まえて改善点をまとめました。昨年 11 月の理事会に諮り審議していただきました。

医療機関の JAPIC に対する意見・批判等は、概ね次のようなものでした。

- ・ 予算が厳しくなる中で、一般的感覚として JAPIC の会費が高い。また、診療所や個人薬局などの小規模事業者の場合、個人的には利用したいが、会費が高過ぎる。
- ・ 会費に見合う情報が得られない。JAPIC の情報提供サービスでは内容が機関内部で説明できない。
- ・ D（99 万円/年）、E（40 万円/年）、F（23 万円/年）会員の会費の内容について、種類の差がわからない。
- ・ 大学等において、「会費」という呼称は馴染みにくい。

また、理事会では、次のような意見が出されました。

医療機関にとって、患者の信頼が得られ QOL の向上や、リスクマネジメントにも役立つなどの大きなメリットが得られる、といった観点での情報提供が必要である。調剤薬局や開業医は、処方箋を書く際に必要な相互作用や副作用の情報が欲しい。ユーザーが多様化しているので、それぞれに応えられるようにすべきである。JAPIC の良さを分かってもらうため、さらにニーズを掴むために各医療機関・大学を訪問し、医療機関への営業（普及）に努めるべきである。また、会員等を訪問して、現場の医師にまで情報が届いているかなど、実態を確認する必要がある。文献はネットから無料で入手できるものも多いが、iyakuSearch は文献以外の情報も入っているので、医療機関を訪問して、理解してもらう必要がある。ネット上で入手できる情報が全て信頼できるとは限らないので、JAPIC の情報は、信頼性が担保できている点を強調すべきである。iyakuSearch を入口にして付加価値を得られるかどうか。双方向性の情報提供ができれば、会員になるメリットが生まれてくるのではないかと。生涯学習の重要性が言われている。最近、JAPIC の講演などの参加費が安くなってきたが、さらに薬事研究会などの研修会・講演会に割安で参加できれば、会員になるメリットがある。

JAPIC は、公益性の観点からユーザーに安心、安全性を高めるための情報を提供することが好ましいので、値下げして普及させることは良い。

同理事会での審議の結果、平成 18 年度から、D,E,F の会費を値下げし、サービスの充実を図ること、また、新たに G 会員（診療所・薬局等小規模機関）を設定する（会費年間 2 万円）ことが決定されました。

JAPIC としては、『今後、「iyakuSearch」「医薬品集」「更新情報」「添付文書記載病名集」等のサービス内容の充実を図りつつ、会費の値下げを行ない医療機関等会員の減少の歯止め、新規会員の増加を図ること』といたします。

現会員の皆様には別途郵送でご案内させていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

（年額）

会 員 の 種 類	新 会 費	改定前 会費
D 会 員	600,000 円	990,000 円
E 会 員	300,000 円	400,000 円
F 会 員	150,000 円	230,000 円
G 会 員	20,000 円	

（会員増強プロジェクトリーダー 理事 中村陽子）



平成 17 年度第 2 回 JASDI フォーラムに参加して

去る 1 月 13 日（金）に「医薬品（臨床）情報と新薬開発～患者主体の医薬品の開発とは～」と題して平成 17 年度第 2 回 JASDI フォーラムが開催されました。今回のフォーラムは、JASDI 主催、武庫川女子大学薬学部共催、JAPIC 協賛の形で、関西（武庫川女子大学日下記念マルチメディア館）で開催されました。

開催趣旨として、案内文に「本フォーラムでは、臨床の現場で新しい効能・効果を求めて日々取り組んでおられる先生方にご登場いただき、医薬品を迅速に世に送り出すために、患者さんの求める医薬品を迅速に世に送り出す方を考えてみたいと思います。特に本フォーラムは研究および開発担当者にも参考になると考えております。」とあるように臨床経験を新薬開発に活かすといった新しい視点でのテーマが特徴的であったと思います。

武庫川女子大の国友薬学部長の開催のご挨拶の後、下記講演とパネルディスカッションが行われました。以下、概要と興味のあった点を列記します。

- (1) 基調講演：「創薬 医薬品情報との関わり」...日本医薬品情報学会 山崎 幹夫会長
日本の医薬品の歴史からはじまり、患者さんのための医薬品開発には臨床における情報に着目し、それを育薬、新薬開発に活かすことが重要である。医薬品は発売された時点で完成されるものではなく、臨床の場で使用されながら変化し進化していくものである。過去、不幸にしてくすりの副作用で被害を受けた患者さんの尊い臨床情報を無にせず、その情報を新薬開発に活用し、より安全で有用な薬を創っていくことが大切である。創薬と臨床を結びつける重要な役割を担うのが医薬品情報であり、医療情報ではないかと力説されました。
- (2) 「臨床マインドから開発する医薬品」...武庫川女子大学薬学部 教授 松山 賢治先生
自ら大学病院で経験された立場から新薬開発について述べられました。患者さんが困っている点を知り、その改善をするだけでも優れた新薬になる可能性があり、またそのようなネタは医療の現場で散見される。逆に臨床マインドを考えた開発を行わないと使いにくい製品になりかねないということを実例を挙げて説明されました。患者ニーズを的確に製薬企業の創薬、育薬、開発担当者に伝達し、患者さんのため、臨床マインドをもって薬づくりをしていただきたいことを、強調されました。講演後、臨床マインドをどのようにして、伝達するのか？との質問もあり、そのやりとりからも、臨床情報が企業の関係者に十分伝わっていない現状がわかり、その問題点こそ、これからの課題であり、改善すべき点であることを認識しました。
- (3) 「診療ガイドラインの行間を読む」...大阪府立成人病センター 治験薬管理室 丁 元鎮先生
病院で治験を担当されている丁先生からはテレビの人気番組のビデオ（例：白い巨塔など）等を放映され、患者さんのための治療、患者さんのための治験とは何かの問題点を分かりやすく解説された。本フォーラムに医師が参加されていたかどうかはわか

りませんが、患者さんの立場になったの治療、患者側の意見などを聴くことと、国民一般も治験に協力することも、国民にとっていい治療薬を早く世に出すことになると、改めて認識しました。

(4) 「医療機関にとって治験を行う意義は何か」～医療への貢献・経済的效果と患者の利益について考える～...近畿大学医学部附属病院 臨床試験管理センター 野村 守弘先生

野村先生からは、現実に行われている臨床試験における問題点などを分かりやすく説明されました。理想的な治験とは学問的価値が大きくかつ研究者にも被験者にも経済的メリットがあるものと説明され、また探索的試験と検証的試験とは棲み分けが重要ではないかと指摘されました。ややもすると、経費の節減、収益中心になりやすい治験行為ではあるが、患者さんを常に意識したものであるべきである。また、真のデータを、客観的にまた科学的に解析し、公開していくことこそ国民のため、ひいては製薬企業のためになることを強調されました。臨床試験情報の登録・公開が話題になりかけている現状にふさわしいお話であったと感じました。

(5) 「市民からみた臨床試験情報」...日経BP 社 北澤 京子先生

上記二題の講演と関係しますが、非専門の立場で、北澤先生から「市民からみた臨床試験情報」のお話がありました。情報公開は世界的な流れであるが、くすりの中身、治験などについては、一般市民にはわからない点が多すぎる。今話題の偽装マンションと同じようなことにならないように、患者に有利に働く作用と場合によっては不利に働く作用もあることをありのまま伝えてもらおうと、より安心できる。薬剤師はコミュニケーターとして患者が何を知りたいのか？何が不安なのか？何が理解できないのかといった点を把握し情報伝達を行うことが大切であると話されました。情報の間違い・不足・伝達不備等によって引き起こされる薬害は、患者にとっても薬にとっても不幸な結果を残すということでありました。

(6) 当センター松本和男専務理事司会によるパネルディスカッション(講師先生：松山先生、丁先生、野村先生、北澤先生)が行われました。新薬創製が冬の時代といわれている。その解決の一つとして、臨床情報を新薬開発、育薬、創薬にどのように活かしていくかに絞ったパネル討論でした。時間的にフロアーとの意見交換は十分でなかったようですが、次のような意見がでました。

- ・薬剤師は構造式から相互作用を予測できる力をもつべきである、その力が新薬開発にもつながる。
- ・企業に不利になることを隠そうとすること自体が新薬創製にマイナスになる。
- ・医療機関(臨床)情報が創薬・育薬部隊に届いていない、企業の社内コミュニケーション不足、患者マインド・臨床マインドに欠けている。

時間の関係で、それらの解決策を論じるまでにはいかなかったのは残念でしたが、比較的少人数のフォーラムであったがために、このような意見が交換できたのかもしれないと感じました。

最後に、山崎会長から関西でのフォーラムであったが、医療機関・大学で現在活躍されている先生に講師になっていただき、具体的な、しかも本音の議論もでき、うれしく思う。今からはもっと医療現場の情報を新薬開発にも活かしていけるように、そのお手伝い、環境づくりに本学会になればと考えている旨の挨拶がありました。

開催時期の問題か、フォーラム開催の案内が行き渡っていなかったのか、関西という場所の問題か、わかりませんが80名程度の参加者でしたが活発な意見交換が行われたと感じます。

本フォーラムを通じ医薬品情報の重要性の再認識、臨床マインドといった視点、また、現在担当している臨床試験情報業務についての現場の状況を知ることができ、大変参考になりました。弊センターから発信している情報もユーザの皆様にとって使いやすく、「情報は存在するが伝わらない」とならないように努力すべきであると痛感致しました。

(医薬文献情報担当 越久村浩二)



まんさく

雪解けを待って、春先に「先ず咲く」が訛って「マンサク」の名を貰ったといわれる。また、花が密集して咲くので(豊年)満作説もある。普通の花とは違って、花びらがアチコチを向いている。早春の寂しい庭木に人気が出てきたが、やはり、深山で見る野生の花は更に輝いている。中国地方には同じ科にベニマンサクがあり、これは紅い花を秋に咲かせる。(ky)

< JAPIC HP ガーデンより >



◀新着資料案内 - 平成 17 年 12 月 12 日～平成 18 年 1 月 12 日受け入れ▶

この情報は JAPIC ホームページ <<http://www.japic.or.jp>>でもご覧頂けます。

お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。

電話番号 03-5466-1827 Fax No. 03-5466-1818

配列は書名のアルファベット順

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
唾液腺腫瘍アトラス 日本唾液腺学会 編	金原出版	2005年 12月	183p	¥11,550
ファーマコジェネティクス - 薬物治療の改善を目指して 津谷 喜一郎 監訳	(株)テクノミック	2005年 12月	266p	¥5,040
がんの薬物療法マニュアル 畠 清彦 編著	中外医学社	2005年	313p	¥4,830
標準脳神経外科 第10版 山浦 晶 他 編	医学書院	2005年 12月	507p	¥7,350
標準整形外科学 第9版 鳥巢 岳彦 他 編	医学書院	2005年 3月	916p	¥9,660
イブに生まれて - こんなに違う女の医療と男の医療 マリアン・レガト 著	健学社	2005年 9月	254p	¥2,100
医薬品要覧 第6版 大阪府病院薬剤師会 編	じほう	2006年 1月	1,507p	¥13,650
14年ぶりに発刊された表を多用した独自の薬効分類別医薬品のまとめ				
実務者のための著作権ハンドブック 第6版 著作権法令研究会 編著	(社)著作権情報センター	2005年 11月	511p	¥3,500
経鼻的胃内視鏡検査の手引き - より苦痛の少ない安全な内視鏡検査を目指して 経鼻的胃内視鏡検査研究会(in 関西) 編	フジメディカル出版	2005年 12月	79p	¥2,415
経腸栄養剤の種類と選択 - どのような時、どのような経腸栄養剤を選択するべきか 井上 善文、足立 香代子 編	フジメディカル出版		162p	¥3,150

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
血液疾患ハンドブック 日常診療の手引きと臨床データ集 下巻 吉田 彌太郎 編	医薬ジャーナル社	2006年 1月	299p	¥5,145
呼吸器疾患治療用医薬品の適正使用を目的としたガイドライン 平成16年度報告書(平成17年3月発行)抜粋 漢方薬治療における医薬品の適正な使用法ガイドライン 漢方薬治療における医薬品の適正な使用法ガイドライン作成委員会 編	日本呼吸器学会	2005年 11月	43p	非売品
メタボリックシンドローム 実践マニュアル 船橋 徹 編	フジメディカル出版	2005年 12月	103p	¥2,100
MIMS New Ethicals 2005 Issue 4 Elizabeth Donohoo ed. ニュージーランドの年2回発行の医薬品集	CMPMedica(NZ) Ltd.	2005年 11月	616p	
最近の薬務行政 16・17年版 薬事研究会 監修	薬務公報社	2005年 12月	430p	¥5,880
USP 29-The United states pharmacopoeia /NF 24 The National formulary USP Convention, Inc. アメリカ薬局方	USP Convention, Inc.	2004年	3,577p	¥80,083

その他資料・寄贈等

1. 秋田県立脳血管研究センター年報 第 16 号 / 秋田県立脳血管研究センター / 152p / 2005
2. 北里大学研究年報 平成 16 年度(その 1) / 学校法人北里学園 / 311p / 2005
3. (財)老年歯科医学総合研究所報告 平成 16 年度 / (財)老年歯科医学総合研究所 / 29p / 2005
4. 老歯医総研レポート No.8 マイクロ CT 体積データの 3 次元サブトラクション法の開発 / (財)老年歯科医学総合研究所 / 9p / 2005
5. 先進医薬年報 No.6 / (財)先進医薬研究振興財団 / 54p / 2005

JAPIC 附属図書館の「蔵書検索」の公開と冊子『JAPIC CONTENTS』廃止のお知らせ!!

昨年 11 月下旬から、ホームページ (<http://www.japic.or.jp>) 上で、附属図書館の「蔵書検索」を公開しております。

これに伴い、『JAPIC CONTENTS』は今年度(平成 18 年 3 月末)をもって廃刊になります。長い間、ご購読ありがとうございました。(詳細は前号 14 ページ参照)

(図書館部門担当 TEL.03-5466-1827)

1月の情報提供一覧

- ・平成18年1月1日から1月31日の期間に提供しました情報は次の通りです。
- ・出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は
当センター事務局業務・渉外担当（TEL.03-5466-1812）までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等
<出版物等>	
1. 「医薬関連情報」1月号	1月27日
2. 「Regulations View」No.125	1月27日
3. 「JAPIC CONTENTS」No.1690～1693	毎週月曜日
4. 「JAPIC NEWS」No.262	1月27日
5. JAPIC「医療用医薬品集」更新情報 2006年1月版	1月31日
6. JAPIC 医療用医薬品集インストール版 2006年1月	1月末
<速報サービス>	
1. 「医薬関連情報 速報 FAX サービス」No.518 - 520	毎週
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス（JAPIC-Q サービス）」	毎週
3. 「JAPIC-Q Plus サービス」	毎月第一水曜日
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス（JAPIC Daily Mail）」No.123 - 126	毎日
5. 「感染症情報（JAPIC Daily Mail Plus）」No.1133 - 1150	毎週月曜日
6. 「PubMed 代行検索サービス」	毎月第一水曜日

データベース一覧	更新日
 <http://database.japic.or.jp/>	
1. 医薬文献情報	1月 1日
2. 学会演題情報	1月 1日
3. 医療用医薬品添付文書情報	1月 14日 1月 28日
4. 一般用医薬品添付文書情報	12月 28日
5. 規制措置情報	毎 日
6. 臨床試験情報	随 時
<JIP e-InfoStream から提供> メンテナンス状況は JIP ホームページ (https://e-infostream.com/) でもご覧いただけます。	
1. 「JAPICDOC 速報版 (日本医薬文献抄録速報版)」	1月 16日
2. 「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	1月 16日
3. 「ADVISE (医薬品副作用文献情報)」	1月 16日
4. 「MMPLAN (学会開催予定)」	1月 17日
5. 「SOCIE (医薬関連学会演題情報)」	1月 16日
6. 「NewPINS (添付文書情報)」(月 2 回更新)	12月 28日 1月 17日
7. 「SHOUNIN (承認品目情報)」	1月 13日
<JST JOIS から提供>	
「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	1月中旬

当センターが提供する情報を使用する場合は、著作権の問題がありますので、その都度事前に当センター事務局業務・渉外担当 (TEL.03-5466-1812) を通じて許諾を得てください。

「添付文書記載病名集」および JAPIC「医療用医薬品集」2006 発売!!

「添付文書記載病名集」一刊行記念

全1,300ページ

ただいま
キャンペーン中

- ・添付文書に記載の「効能・効果」と「標準病名およびICD10コード」が対応。
- ・医療用の内服薬、注射薬および外用薬（漢方薬は含まれていません）について適正使用の観点から、最小限の内容に絞ったため。
- ・医療活動の他に医事の業務にも有用。



JAPIC「医療用医薬品集」2006

- ・国内で 사용되는医療用医薬品添付文書情報を収載。
- ・本書データを収載した便利なCD-ROM付。
- ・薬剤識別コード一覧付。
- ・更新情報（新薬・改訂）の提供。（別売）

キャンペーン その1

「添付文書記載病名集」が
特別価格でご購入頂けます!!

定価 7,000円(税込)

→ 刊行記念特価：5,000円(税込)
(冊子あるいはCD-ROM)

キャンペーン その2

「医療用医薬品集」2006
(価格14,700円(税込))をお買い求め頂くと

→ 「添付文書記載病名集」を贈呈!!

購入申込書（FAXでお送りください）キャンペーン期間（平成17年12月～平成18年3月末）News

申込先：（財）日本医薬情報センター FAX：03-5466-1814			
丸善(株)へ申込の場合 FAX：03-3272-0693			
ご指定書店名 書店（市区町村） ☆書店のご指定のない場合は発売元の丸善より書店を指定させていただきます。			
ご購入タイプ		特別価格	申込部数
「添付文書記載病名集」書籍 ISBN4-9902358-6-X		5,000円(税込)	冊
「添付文書記載病名集」CD-ROM 冊数JICIS: #indoc98SE.No.HT4.0.2000/XP ISBN4-9902358-7-8		5,000円(税込)	冊
「医療用医薬品集」2006 + 「添付文書記載病名集」書籍を贈呈 ISBN4-9902358-1-9		14,700円(税込)	冊
「医療用医薬品集」2006 + 「添付文書記載病名集」CD-ROMを贈呈 ISBN4-9902358-1-9		14,700円(税込)	冊
お届け先 ご住所	〒		
所属 機関	氏名	TEL	

==== 財団法人 日本医薬情報センター（JAPIC）

（<http://www.japic.or.jp/>）

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15

長井記念館 3階

TEL 03(5466)1811 FAX 03(5466)1814

e-mail : gyoumu@qb3.so-net.ne.jp

禁無断転載

JAPIC NEWS 2006年2月号

2006.1.27 発行（No.262）

（1984.4.27 No.1 発行）